

平成 元 (1989) 年度策定
平成 13 (1989) 年度変更
平成 21 (2009) 年度変更
令和 6 (2024) 年度変更

井原・芳井地域広域整備計画書
(広域営農団地整備計画)

令和 6 (2024) 年 4 月

岡 山 県

目 次

第1	広域営農団地の区域-----	1
1	広域営農団地の区域設定に関する考え方-----	1
2	広域営農団地の位置と範囲-----	2
	（1）広域営農団地の位置-----	2
	（2）広域営農団地の範囲-----	2
3	広域営農団地を管轄する農業協同組合-----	2
第2	広域営農団地の整備の基本構想-----	3
1	広域営農団地の農業概況-----	3
	（1）農家戸数、農家人口、農業就業人口の推移-----	3
	（2）土地利用の推移-----	3
	（3）農業生産の推移-----	3
	（4）各種農業振興計画-----	3
	（5）農業関係諸施策のうち基幹的な事業の実施状況-----	4
2	広域営農団地整備の基本構想-----	1 1
	（1）基幹作目-----	1 1
	（2）基幹作目の生産、流通等の将来展望-----	1 2
	（3）農業経営の目標-----	1 3
	（4）整備の基本的方向-----	1 5
第3	農業生産基盤の整備及び開発に関する計画-----	1 6
1	整備・開発の構想-----	1 6
2	整備・開発計画-----	1 6
	（1）農道整備事業の計画-----	1 6
	（2）その他の広域的な事業の計画-----	1 6

第4	農業近代化施設の整備に関する計画	17
1	整備の構想	17
2	整備計画	18
3	他事業との関連	18
第5	広域営農団地の管理運営組織の整備に関する計画	19
1	広域営農団地管理運営組織の整備	19
2	広域農業近代化施設管理運営組織の整備	19
3	広域営農団地の管理者の養成方針	19
第6	農業生産団地の形成等との関連	20
1	農業生産団地形成の構想	20
2	農業生産団地と広域施設等との関連	21

第1 広域営農団地の区域

1 広域営農団地の区域設定に関する考え方

本県は、瀬戸内海に面する恵まれた自然条件の下で、米をはじめ、生乳、肉類（牛肉、豚肉、鶏肉）及び鶏卵、果樹、野菜及び花きなどの豊富で多彩な農畜産物を生産し、発展してきたが、社会経済的情勢の急激な変化により、農業は大きな転換を余儀なくされている。

農業を取り巻く状況は、県南部を中心に地域の都市化及び工業化の進展によって、農村と都市との生活環境に格差が生じるとともに農業生産の減退、農業所得の伸び悩み、兼業農家の増加、農業の担い手の高齢化や減少などの問題を抱え、年々厳しいものとなっている。

本県の農業は、今後、中国縦貫自動車道吹田山口線、山陽自動車道、中国横断自動車道岡山米子線及び瀬戸中央自動車道並びに山陽新幹線をはじめとする鉄道各線、岡山空港及び水島港など恵まれた「人・もの・情報」が行き交う交通・物流交流拠点としての優位性を生かし、近畿圏をはじめとする大都市部の消費者のニーズに対応した農産物の安定的な供給、生産性の高い農家の育成並びに流通の合理化と近代化を図る必要がある。

本県では、「岡山県農業振興地域整備基本方針（令和3（2021）年6月変更）」において、農業地帯を南部と中北部に区分し、それぞれの地域特性を生かした農業の振興を行っている。

南部農業地帯は瀬戸内海に面した県の南部一帯であり、吉井川、旭川、高梁川の県内三大河川の下流域に広がる平野部を中心に、内海の島しょ部、県中北部の丘陵部にまたがる地帯で、総面積は県土のおおむね4割を占めている。温暖寡雨の典型的な瀬戸内式気候で、沖積層、花崗岩等が分布している。本地帯における農業の振興は、都市化と工業化の影響を受けるなか、これらとの調和を図りつつ、都市への生鮮食料品の供給基地として農用地の高度利用による農業の近代化を推進する。

中北部農業地帯は県下の三大河川により細分化された上流地域に位置し、中部丘陵地帯から中国山地南麓地域にかけ変化に富んだ地形を形成しており、総面積は県土のおおむね6割を占めている。中部は概して温暖寡雨で花崗岩、石英粗面岩等が分布し、北部は、日本海式気候に近い積雪寒冷地帯であり、花崗岩、秩父古生層等が分布している。本地帯における農業の振興は、吉備高原、津山盆地、美作台地等のなだらかな広がりを持つ地域を主体とした農山村地域であり、中山間地域の特色を生かした園芸産地の形成や畜産基地としての振興を図る。

井原・芳井地域広域営農団地は、南部農業地帯の西部に位置し、平成17（2005）年3月1日に旧井原市、旧芳井町及び旧美星町が合併し誕生した井原市のうち、旧井原市地域及び旧芳井町地域、東西約16km、南北約22km、総面積約170km²で北部の吉備高原の丘陵地と山地、高梁川水系小田川及び芦田川水系高屋川流域に開けた平坦地からなる一団の団地を形成している。

旧井原市地域に教育、医療、文化、商工業及び行政等の都市機能の多くが集中しているため、井原市における住民の生活及び経済活動は、旧井原市地域を拠点に営まれており、北部に位置する旧芳井町地域及び旧美星町地域を含め一つの社会生活圏を形成している。

農業においては、米、野菜、果樹、花き及び畜産を中心にした生産を展開している。

令和2（2020）年4月1日に井原市を含む5市2町を管轄とする岡山西農業協同組合を含む県内8農協が合併して「晴れの国岡山農業協同組合」

が発足した。広域化によるスケールメリットを生かした生産資材等の購入に農家が有利となるようコストの低減を図っている

農産物の流通については、市場流通に加え、平成 13 年度に開設された「葡萄浪漫館」をはじめ、団地内 5 カ所に開設された農産物直売所の活用を積極的に展開し、団地内の農産物及びその加工品の販売のため、周辺都市からの消費者交流を推進し、ひいては、団地内の産地化へ結びつける。

また、産地の強化及び地域資源の有効な活用を図る観点から農地開発等の投資も肝要である。これらの整備を進めて、農業、農村の活性化につとめるとともに、安定した農産物の生産・供給基地の形成を図っている。

以上、農業生産、流通の現状及び将来計画等を考慮し、旧井原市及び旧芳井町を一体化した計画として、農業振興地域の整備に関する法律第 9 条第 1 項に基づき基準年を令和 2（2020）年として、目標年を令和 12(2030)年と定めて策定するものである。

なお、目標値については、令和 2 年度の管内農畜産物生産状況を鑑みたくえで、平成 21 年度（平成 17 年度基準）に目標として設定した平成 27 年度目標を適用するものとする。

2 広域営農団地の位置と範囲

(1) 広域営農団地の位置

南部農業地域の南西部、吉備高原の最南端に位置し、小田川及び高屋川流域に開けた平野部、山間及び丘陵地からなる農業地域である。

(2) 広域営農団地の範囲

井原農業振興地域のうち旧井原市及び旧芳井町の区域

3 営農団地を管轄する農業協同組合

(1) 総合農協

組合名	自治体名	備 考
晴れの国岡山農業協同組合	井原市	この組合の管内は、県内の岡山市（東区瀬戸町を除く）・玉野市・瀬戸内市・加賀郡吉備中央町の一部を除く区域である。

(2) 専門農協

組合名	自治体名	備 考
おかやま酪農業協同組合	井原市	この組合の管内は、県内全域である

第2 広域営農団地の整備の基本構想

1 広域営農団地の農業概況

(1) 農家戸数、農家人口、農業就業人口の推移

本団地の農家戸数は、平成17年と令和2年を比較すると、農家戸数については、ほぼ半減し、経営耕地規模別農家戸数では、小規模（2ha未満）で減少し、2ha以上の農家は増加している。

表1 農家戸数 （2020年農林業センサスから推計）

(2) 土地利用の推移

平成17年と令和2年を比較すると水田は64ha、畑については114ha減少している。果樹園については横ばいで推移している。今後、水田の畑地化等土地利用型農業を推進し、農地の減少防止に努めていく。

表2 土地利用 （確保すべき農用地等の面積の目標の達成状況より推計）

(3) 農業生産の推移

表3 農業生産の推移 （岡山県農林水産統計年報、2020年農林業センサスから推計）

(4) 各種農業振興計画

計画名	対象区域	備考
農業振興地域整備計画	井原市全域	令和3年度変更
井原市畜産クラスター計画	井原市全域	令和2年度更新
多面的機能発揮促進事業に関する計画	井原市全域	令和元年度更新
農地等の利用の最適化の推進に関する指針	井原市全域	平成29年度策定
井原市鳥獣被害防止計画	井原市全域	令和3年度改正
井原市農林業等活性化基盤整備計画	(旧)井原市	平成6年度策定

農業農村整備基本計画	(旧)井原市	平成7年度策定
酪農・肉用牛生産近代化計画	井原市全域	平成28年度改正
田園環境整備マスタープラン	井原市全域	平成19年度策定
井原市農村振興基本計画	井原市全域	平成22年度策定
井原市21世紀農業経営基本構想	井原市全域	令和5年9月変更

(5) 農業関係諸施策のうち基幹的な事業の実施状況

ア 対策要綱第7に掲げる事業で実施され、又は、実施中のもの

広域営農団地農道整備事業

イ その他基幹的事业の実施状況

(ア) 土地基盤の整備開発状況

本団地の耕地は山間、丘陵部に比較的多く分布し、生産基盤の不良な地域が多く、生産の省力化・合理化のための阻害要因となっている。このため農村総合整備モデル事業、中山間地域総合整備事業をはじめ、小規模土地改良事業、農業用施設整備事業、ため池等整備事業等によってほ場整備、水路整備、ため池改修等を実施し農業生産の基盤整備を推進してきている。

今までに、実施し、あるいは継続中の土地基盤の整備状況は、次の表のとおりである。

(受益面積の単位：ha)

事業種類	事業名	地区名	関係市町村	事業主体	受益面積	事業の概要	実施期間	備考
かん	畑地帯総合土地改良事業	明治(明治ダム)	井原市(旧芳井町)	岡山県	185.0	ダム1カ所	S49~H18	
	中山間地域総合整備事業	高原	井原市(旧芳井町)	岡山県	8.0	畑かん施設	H7~H8	
	中山間地域総合整備事業	共和	井原市(旧芳井町)	岡山県	4.8	用水路L=599m	H9	
	基盤整備促進事業	木之子	井原市(旧井原市)	旧井原市	18.0	水路整備L=1,000m	H11~H13	
	ため池等整備事業	天神山池	井原市(旧芳井町)	岡山県	56.1	ため池改修1カ所	H4~H9	
	農地防災事業	上田池	井原市(旧芳井町)	岡山県	2.7	ため池改修1カ所	H6~H7	

が い 排 水 ・ 畑 作 振 興	団体営土地改良総合整備事業	県主北地区	井原市 (旧井原市)	旧井原市	40.3	用排水路 L=2, 170m	H4~H9	
	小規模土地改良事業	谷田	井原市 (旧芳井町)	旧芳井町	5.0	水路整備 L=466m	H5~H10	
		高ヶ原	井原市 (旧芳井町)	旧芳井町	2.0	水路整備 L= 83m	H8	
		西吉井	井原市 (旧芳井町)	旧芳井町	4.5	水路整備 L=506m	H15~H17	
		西吉井	井原市	井原市	4.5	樋門 1カ所	H18	
		差迫	井原市	井原市		水路整備 L=50m	H17~H18	
		船ヶ原	井原市	井原市		水路整備 L=270m	H18	
		水尾	井原市	井原市		水路整備 L=160m	H18	
		西吉井	井原市	井原市		水路整備 L=200m	H17~H18	
		前曾根	井原市	井原市		水路整備 L=120m	H18	
		月夜	井原市	井原市		水路整備 L=120m	H18	
		原田	井原市	井原市		水路整備 L=310m	H19	
		宮ノ前	井原市	井原市		水路整備 L=100m	H19	
		清迫	井原市	井原市		水路整備 L=95m	H19	
		九文字屋	井原市	井原市		樋門 2基整備	H19	
		西側	井原市	井原市		水路整備 L=55m	H19	
		中之坪	井原市	井原市		水路整備 L=90m	H20	
		月夜	井原市	井原市		水路整備 L=210m	H20	
		談議所	井原市	井原市		水路整備 L=260.3, W=0.6	H21	
		馬場迫	井原市	井原市		水路整備 L= 65.3, W=0.3	H21	
	飯名	井原市	井原市		水路整備 L= 67.2, W=0.55	H21		

		青野畑かん	井原市	井原市		畑かん移設 L=16.4	H21	
		谷田	井原市	井原市		水路整備 L=6.0, W=1.3	H21	
		青野畑かん	井原市	井原市		北山幹線水路 L=115.1m	H21	
		中講	井原市	井原市		水路整備 L=19.5, W=0.25	H22	
		猪原	井原市	井原市		水路整備 L=157.0, W=0.5	H22	
		木舟	井原市	井原市		水路整備 L=115.1, W=0.3	H22	
		猪原	井原市	井原市		水路整備 L=93.8, W=0.3	H22	
		明見山	井原市	井原市		配水層整備	H22	
		惣谷	井原市	井原市		水路整備 L=111.3, W=0.25	H22	
		横田	井原市	井原市		水路整備 L=76.0, W=0.25	H23	
		中ノ坪	井原市	井原市		水路整備 L=61.0, W=0.3	H23/24	
		内寺	井原市	井原市		水路整備	H26	
		原田	井原市	井原市		樋門修繕	H29	
		大江(小山)	井原市	井原市		樋門修繕	R元	
		鎌迫	井原市	井原市	16.0	水路整備 L=10.1m, W=0.3	R4	
	農業用施設整備事業	築瀬	井原市(旧芳井町)	旧芳井町	8.0	水路整備 L=879.4m	H6~H12	
		築瀬	井原市(旧芳井町)	旧芳井町	8.0	水路整備 L=692m	H13~H16	
		与井	井原市(旧芳井町)	旧芳井町	7.0	水路整備 L=485m	H6~H9	
		与井	井原市(旧芳井町)	旧芳井町	7.0	水路整備 L=414m	H11~H22	
		泉谷	井原市(旧芳井町)	旧芳井町	8.0	水路整備 L=737m	H7~H8	
		菰原	井原市	井原市		水路整備	H25	

	中山間等生活・交流基盤整備推進事業	落石	井原市	井原市		水路整備	H25	
		池田	井原市	井原市		水門整備	H25	
		神戸	井原市	井原市		水路整備 L=68.8, W=0.3	H24	
		与井	井原市	井原市		水路整備 L=111.8, W=0.25	H24	
		室屋	井原市	井原市		樋門修繕	H24	
		瀬ノ下	井原市	井原市		頭首工整備	H24	
		猪原	井原市	井原市		水路整備 L=205.3m	H24	
		中秦	井原市	井原市		水路整備	H24	
農 地 基 盤 整 備	中山間地域総合整備事業	名越	井原市 (旧芳井町)	岡山県	3.5	ほ場整備 A=3.5ha	H5～H9	
		片塚	井原市 (旧芳井町)	岡山県	3.5	ほ場整備 A=3.5ha	H5～H9	
		種下	井原市 (旧芳井町)	岡山県	5.5	ほ場整備 A=5.5ha	H6～H9	
		種中1工区	井原市 (旧芳井町)	岡山県	3.0	ほ場整備 A=3.0ha	H7～H9	
		種中2工区	井原市 (旧芳井町)	岡山県	2.7	ほ場整備 A=2.7ha	H7～H9	
		種中3工区	井原市 (旧芳井町)	岡山県	6.7	ほ場整備 A=6.7ha	H7～H9	
		村入	井原市 (旧芳井町)	岡山県	4.7	ほ場整備 A=4.7ha	H7～H9	
		種北	井原市 (旧芳井町)	岡山県	7.6	ほ場整備 A=7.6ha	H8～H9	
		郷	井原市 (旧芳井町)	岡山県	6.0	ほ場整備 A=6.0ha	H8～H9	
		橋	井原市 (旧芳井町)	岡山県	2.0	ほ場整備 A=2.0ha	H8～H9	
		中講	井原市 (旧井原市)	岡山県	2.7	ほ場整備 A=1.4ha	H11～H17	
		友平	井原市 (旧井原市)	岡山県	2.7	ほ場整備 A=2.7ha	H11～H17	
		県主南	井原市 (旧井原市)	岡山県	14.0	ほ場整備 A=14.0ha	H11～H17	

事業		築井	井原市 (旧井原市)	岡山県	2.3	ほ場整備 A=2.3ha	H11~H17	
		仁井山	井原市 (旧井原市)	岡山県	1.8	ほ場整備 A=1.8ha	H11~H17	
		香連地	井原市 (旧井原市)	岡山県	0.9	ほ場整備 A=0.9ha	H11~H17	
		中塚	井原市 (旧井原市)	岡山県	2.4	ほ場整備 A=2.4ha	H11~H17	
		丸山 1	井原市 (旧井原市)	岡山県	2.6	ほ場整備 A=2.6ha	H11~H17	
		丸山 2	井原市 (旧井原市)	岡山県	1.5	ほ場整備 A=1.5ha	H11~H17	
		末国	井原市 (旧井原市)	岡山県	0.4	ほ場整備 A=0.4ha	H11~H17	
		細見	井原市 (旧井原市)	岡山県	3.2	ほ場整備 A=3.2ha	H11~H17	
		内寺	井原市 (旧井原市)	岡山県	4.0	ほ場整備 A=4.0ha	H11~H17	
		尾部	井原市 (旧井原市)	岡山県	0.4	ほ場整備 A=0.4ha	H11~H17	
農道	中山間地域総合整備事業	高ノ尾向	井原市 (旧井原市)	岡山県	1.7	農地開発 A=1.7ha	H11~H17	
		仁井山	井原市 (旧井原市)	岡山県	7.3	農道整備 L=842m, W=4.0m	H11~H17	
		賀山	井原市 (旧井原市)	岡山県	3.2	農道整備 L=196m, W=4.0m	H11~H17	
		赤向土峠	井原市 (旧井原市)	岡山県	8.5	農道整備 L=290m, W=4.0m	H11~H17	
		小尺	井原市 (旧芳井町)	岡山県	1.6	農道整備 L=691m, W=4.0m	H5~H8	
		清谷	井原市 (旧芳井町)	岡山県	3.5	農道整備 L=809m, W=4.0m	H6~H8	
		天神前	井原市 (旧芳井町)	岡山県	63.4	農道整備 L=375m, W=4.0m	H4~H8	
		七反	井原市 (旧芳井町)	岡山県		農道整備 L=734m, W=4.0m	H4~H8	
		名郷	井原市 (旧芳井町)	岡山県		農道整備 L=177m, W=4.0m	H4~H8	
	団体営土地改良総合整備	県主北部	井原市 (旧井原市)	旧井原市	40.3	農道整備 幹線 L=939m, W=7.0m	H4~H10	

						支線 L=1,920m, W=5.0m		
	ふるさと農道緊急整備	西吉井	井原市（旧芳井町）	旧芳井町	10.0	農道整備 L=500m, W=4.0m	H16～H18	
	小規模土地改良事業	上清水	井原市（旧芳井町）	旧芳井町	2.0	農道整備 L=259m, W=4.0m	H6～H9	
		大迫	井原市（旧芳井町）	旧芳井町	2.4	農道整備 L=493m, W=3.0m	H8～H10	
		追崎	井原市（旧芳井町）	旧芳井町	2.0	農道整備 L=100m, W=3.0m	H11	
		南沼	井原市	井原市		農道整備 L=200m	H17	
		西方	井原市	井原市		農道整備 L=143.8m, W=4.0	H21, 22	
		西平井	井原市	井原市	4.1	農道整備 L=208m	H27～H29	
		中山間地域等生活・交流基盤推進事業		井原市	井原市		農道整備 19路線	
			井原市	井原市		農道整備 15路線		
			井原市	井原市		農道整備 28路線		
	小規模土地改良事業	中ノ間角尾瀬	井原市	井原市		道路整備 L=208m	H27～29	

(イ) 農業近代化施設の整備状況

本団地は、米・野菜・果樹・花き・畜産等の生産振興を図るため、新農業構造改善事業、農業生産体質強化総合推進対策事業、新地域農業生産体質強化振興対策事業等により、各種農業近代化施設が整備されてきた。

これまでに実施された主な農業近代化施設の整備状況は、次の表のとおりである。

(※「設置場所」欄、「事業主体」欄、「受益範囲」欄の市町村名は、平成の市町村合併前の市町村名を記載)

施設の 種類	設置 事業名	設置 場所	対象 作物	規格又は規模 (施設面積、処理能力)	事業主体	管理主体 (利用組織)	受益範囲	受益個数 又は 受益面積	事業 年度	備考
	ふるさと特産物育成対策事業	旧井原市	ブドウ	ハブハウス36棟 448a	井原市農協露地 ぶどう会	農家	旧井原市各所	42戸	H7～ H11	

生 産 施 設	有機無農薬農産物生産性向上 対策事業	旧井原市	野菜	パイプハウス 4棟 85a	有機無農薬農業 研究会	農家	旧井原市各所	10戸	H9～ H12	
	野菜産地再編整備事業	旧芳井町	野菜	パイプハウス 41棟 147a	芳井町農業協同 組合	農家	旧井原市各所	29戸	H8～ H10	
	ぶどう生産施設整備事業	旧芳井町	ブドウ	トンネルハウス 3カ所 35a 灌水施設 3カ所	芳井町農業協同 組合	農家	旧芳井町三原	16戸	H7～ H10	
	フロンティア21農山漁村地 域活性化基盤臨時整備事業	旧井原市	ブドウ	パイプハウス 17棟 170a	岡山西農協井原 ぶどう部会	農家	旧井原市各所	17戸	H15	
	ピオーネ王国おかやま創造事 業	旧井原市 旧芳井町	ブドウ	パイプハウス 110棟 1,164a 果樹棚 1.44ha	岡山西農協井原 ぶどう部会	農家	旧井原市各所 旧芳井町各所	110戸	H15～ H20	
	くだもの王国おかやま確立事 業	旧井原市 旧芳井町	ブドウ	果樹棚 1.68ha	岡山西農協井原 ぶどう部会	農家	旧井原市各所 旧芳井町各所	16戸	H19～ H20	
	目指せ J1! 園芸作物ステップ アップ事業	井原市	ブドウ	パイプハウス 11棟 果樹棚 1.32ha	岡山西農協井原 ぶどう部会	農家	旧井原市各所 旧芳井町各所	11戸	H21	
	おかやま園芸ブランド生き活 き創生事業	井原市	ブドウ	果樹棚 0.52ha	岡山西農協井原 市ぶどう部会	農家	旧井原市各所 旧芳井町各所	2戸	H26～ H28	
	ぶどうの供給力強化緊急対策 事業	井原市	ブドウ	果樹棚 0.84ha	岡山西農協井原 市ぶどう部会	農家	旧井原市各所 旧芳井町各所	11戸	H29～ R3	
	産地パワーアップ事業	井原市	ブドウ	パイプハウス 2棟 果樹棚 0.89ha	岡山西農協井原 市ぶどう部会	農家	旧井原市各所 旧芳井町各所	7戸	H30～ R元	
ハイブリッド産地育成推進事	井原市	ブドウ	パイプハウス 5棟	岡山西農協井原	農家	旧井原市各所	13戸	H2～		

	業			果樹棚 1.22ha	市ぶどう部会		旧芳井町各所			
集出荷施設	農協単独事業	井原市荏原	水稻 野菜	米・野菜集出荷施設 1棟 421 m ²	岡山西農協	同左	旧井原市 旧芳井町	11,071 戸	H21	
	畜産・酪農収益力強化整備等 特別対策事業	井原市	鶏卵	GPセンター	井原市畜産ク スター協議会	同左	旧井原市	1 経営体	R2	
乾燥施設	集落営農システム化事業	旧井原市	水稻	乾燥機 3 台 粃摺り機 1 台 コンバイン 1 台 田植機 1 台	矢の側集落営農 組合	同左	旧井原市	17 戸	H11 ~ H12	
堆肥製造 施設	家畜ふん尿処理システム化施設 設置事業	井原市猪原		牛糞発酵処理施設 1カ所 297 m ² 893.3t/年	猪原地区 堆肥利用組合	同左	井原市猪原	6 戸	H11	
加工・直 売施設	山村振興等農林漁業特別対策 事業	井原市青野	ブドウ	加工・直売施設 1棟 1,034 m ²	井原市	ぶどうの里 運営協議会	井原市青野	192 戸	H13	

2 広域営農団地整備の基本構想

(1) 基幹作目

需要の動向と地域の特性に即して、本団地の基幹作目を、「米」、「野菜」、「果樹」、「花き」及び「畜産」等として生産の外延拡大、生産技術の向上や作付けの拡大により、地域輪作体系を確立し、効率的な流通加工体制の確立を図る。

また、耕作放棄地対策として露地野菜を中心に作付けの拡大を図る。

なお、主要作目毎の生産団地形成の構想は次のとおりである。

ア 米、大豆、小豆

米、大豆、小豆の栽培面積は減少傾向にあるが、本地域産出額の約 1 割を占めており、経営依存度はあまり高くないものの、需要に応じた低コストかつ消費者嗜好に対応した良質米の計画的生産を図るとともに、水田における大豆、小豆等の定着・拡大を図る。

さらに、米粉、飼料米等の新規需要米にも取り組み水田農業の高度化を図る。

また、大規模稲作農家の育成や農地の流動化、作業受委託、機械共同利用を推進し、集落営農を行う組織育成を図り、コストの低減を図

る。

イ 野菜（ばれいしょ、トマト、きゅうり、ほうれんそう、キャベツ、はくさい、ごぼう等）

従前からの特産であるばれいしょ、ごぼう等に加え、山間、丘陵地の準高冷な気候や高品質野菜の生産に適する典型的な赤土で肥沃な粘土土壌を生かして、消費者ニーズに即した特産野菜の生産振興を積極的に推進し野菜生産供給基地の機能強化に努める。

荒廃農地対策や農家高齢化対策の一環として直売所を中核にした地産地消の推進を積極的に行うための少量多品目栽培の推進を行っている。

また、いちごについては、既存の生産農家を中心に、県がブランド化を進める「晴苺」としての出荷を目指す。

ウ 果樹（ぶどう、もも、なし、かき）

青野地区の「葡萄浪漫館」を中核として、西日本一のマスカット・ベリーA の主産地を核として産地形成が図られてきたが、消費者や市場の動向を踏まえてピオーネやシャインマスカット等の大粒品種への改植を進めるとともに、次世代ブドウとして推進しているオーロラブラック等の新品種も導入した積極的規模拡大を行い、施設栽培を導入することにより継続出荷ができる産地体制を構築する。

エ 花き（切り花）

花き（リンドウ、トルコギキョウ）については、適地適作を基本に、産地規模を拡大し、周年供給体制を強化する。

オ 畜産（乳用牛、肉用牛、採卵鶏）

乳用牛、肉用牛については、計画的、安定的な生産に努めるとともに、飼料生産基盤の整備、飼料自給率の向上等による低コスト生産に努める。

また、地域の農業産出額の過半を占める採卵鶏は、経営事情が依然として厳しい環境下にあるが、一層の低コスト生産を目指した養鶏を振興する。

カ 薬用作物（シャクヤク）

耕作放棄地対策の一環として、平成26年に井原市耕作放棄地対策協議会が栽培に取り組んだ薬用作物は、耕作者が拡大し、令和3年にはJA 晴れの国岡山に「井原市薬用作物部会」が設立され、さらなる栽培拡大が進められている。

井原市が品種利用権をもつ「べにしずか」と生薬会社の委託栽培を行っている薬用シャクヤクは、薬効成分のある根の部分をはじめ切り花の出荷や花摘み体験ツアーなど薬用作物の産地化を図る。

（2）基幹作目の生産、流通等の将来展望

本団地は、農村総合整備モデル事業、団体営土地改良総合整備事業、中山間地域総合整備事業の実施により、生産基盤の整備を行ってきたところである。今後も土地基盤整備の実施、土地資源の開発利用による経営規模の拡大、生産の集団化、団地化を進め、米、野菜、果樹、花き、畜産を地域の農業経営における基幹作目として振興を図る。

米は、土地基盤の整備、生産の組織化、農地の流動化推進等により地域全体として生産性を高め、優良米の安定生産を図る。

野菜は、トマトをはじめ、準高冷地の気候、高品質な生産が期待できる土壌等、地域の特性を生かして生産の外延拡大を進め、質、量共に特徴ある生産基地の形成に努めるとともに、既存の近代化施設を再編強化し、流通の合理化を図る。

果樹は、ぶどうを主体に既存産地の強化とさらなる生産振興に努めると共に、果樹集出荷施設の整備、活用により流通の合理化を図る。

花きについては、切り花を中心に作型と品目の組み合わせによる昨期幅の拡大、優良品種の推進による良品生産の推進等、本地域の立地条件を活かした施設花きの振興を図るとともに、計画生産による周年供給体制を確立し、新しい産地形成を図る。

畜産は、乳用牛、肉用牛、採卵鶏を中心に、需給の動向を見極めながら、飼料自給率の向上、飼育技術の改善による徹底したコスト低減を図るとともに、計画的生産を行う。また、糞尿等の副次産物は、耕種農家や園芸農家との経営間の相互補完に役立てる。具体的には、水田、畑地の土地生産力の向上と高品質な農産物を生産するために欠くことのできない良質の堆肥を確保するためのストックヤードとして堆肥センターを整備し、その活用を図る。

なお、作物別生産量及び流通量の見通しは次のとおりである。

表4 栽培農家戸数・栽培面積・生産量・商品量 (農林業センサス、岡山農林水産統計年報から推計)

(3) 農業経営の目標

本団地は、主として畑作を中心に野菜、果樹、畜産の振興を図っている。水田については、優良米の安定生産をはじめ、水田の高度利用を図るべく、野菜や飼料作物の生産を振興している。将来とも地域営農の基幹作物は、米、野菜、果樹及び乳用牛、肉用牛、採卵鶏の畜産であり、各種の土地基盤整備、農地改良等営農の基礎的条件の整備を進めるとともに、農地の集積・集約による規模拡大、農作業受委託による作業単位の拡大、営農近代化施設の整備、生産技術の高度化等を促進し、地域全体として生産効率の高い広域営農団地を育成する。

また、流通組織の整備、交通条件の整備を行うとともに販売促進、販路開拓をも積極的に進めて農家所得の拡大を図る。目標とする営農類型は次の通りである。

目標とする一戸あたりの農業所得は概ね年間 4,000 千円とする

営農類型	経営農用地面積	作目構成	資本装備	備考
果樹専作 (ぶどう)	60a	ピオーネ(2月加温) 5a ピオーネ(簡易被覆) 50a シャインマスカット() 5a	作業場、パイプハウス、重油タンク、動力噴霧器、 バックホー、軽四トラック、ぶどう棚、かん水施設、暖房機、 運搬車、ぶどう樹	

果樹専作 (もも)	70a	加納岩白桃 10a 白鳳 15a 清水白桃 15a おかやま夢白桃 10a 白皇 10a ゴールデンピーチ 10a	作業場、防風ネット、動力噴霧機、バックホー、軽四トラック、防蛾灯、かん水施設、運搬車、SS、もも樹	
野菜専作	35a	トマト(雨よけ) 20a ほうれん草(周年月まき) 15a	作業場、動力噴霧機、軽四トラック、パイプハウス、トラクター、播種機	
野菜専作	50a	なす(露地) 20a たまねぎ 30a	作業場、動力噴霧機、軽四トラック、管理機、トラクター、トラック、プロトキャスター	
野菜・水稲 複合	50a	いちご(はればれプラント) 20a 水稲 30a	作業場、二重カーテン装置、換気扇、動力噴霧機、軽四トラック、パイプハウス、燃料タンク、高設栽培システム、暖房機	
花き専作	45a	トルコギキョウ(普通) 15a ラークスパ(超促成) 15a カラー 15a	作業場、育苗ハウス、トラクター、動力噴霧機、パイプハウス、かん水施設、管理機、冷蔵庫、軽四トラック	
花き専作	35a	りんどう 25a きんぎょそう 10a	作業場、パイプハウス、暖房機、かん水施設、冷蔵庫、動力噴霧機、軽四トラック、トラクター	
酪農専作		経産牛(ホルスタイン) 50頭 飼料 10ha	畜舎、作業場農機具庫、パイプハウス、攪拌搬送機、堆肥舎、尿溜、ロールベラー、ラッピングマシン、キャロボ、バンクレーター、バルククーラー、トラクター	
肉用牛専作		肉用牛(黒毛和種・繁殖) 70頭	畜舎、農機具庫、堆肥舎、飼料庫、発情監視システム、トラクター、フロントローダー、軽四トラック、4tトラック	

養鶏専作		鶏（採卵） 50,000羽	鶏舎、攪拌搬送機、成鶏ケージ、自動集卵機、自動給餌機、トラック、シヨベルローダー、動力噴霧機、鶏ふん乾燥システム	
------	--	---------------	--	--

（井原市 21 世紀農業経営基本構想）

（4）整備の基本的方向

本団地の南部は水田が主で、北部は山間丘陵地からなり、水田もさることながら、野菜、果樹等を中心とした畑作農業のウエイトが高い。

このため、従来から、農村総合整備モデル事業、土地改良総合整備事業、中山間地域総合整備事業等の実施により、畑地かんがい、農業用ダム等の土地基盤整備を進めて、生産の外延拡大を図るとともに、ほ場整備、かんがい排水、農道整備等を実施するなどして営農の基礎的条件整備に努めてきた。

一方、米、野菜・果樹、畜産等の生産振興を図るため各種事業を取り入れ、集出荷施設、たばこ協同乾燥施設、家畜糞尿処理施設等の整備を行ってきたが、そのほとんどは広域施設ではなく、限られた受益を範囲とした施設であった。

しかし、平成 15 年に当営農団地を含む 7 市町の農協が広域合併し「岡山西農業協同組合」が発足、さらに令和 2 年には県内 8 農協が合併して「晴れの国岡山農業協同組合」が発足し、既存施設の集約化等により、より広域的観点から生産流通施設の見直しを図る必要が生じている。

また、水田については、土地基盤整備や農用地の集積・集約による規模拡大を進めるとともに、水稻については、経営所得安定対策に基づき良質米の計画的安定的生産に努める。

また、生産基盤の整備と農業生産団地の形成に対応する広域的な営農流通管理センター等を整備して、品質の向上、規格の統一を図るとともに、あわせて、流通の基幹となる広域農道の整備を図り、流通の近代化を推進する。また、農地の生産力増強や有機無農薬農業の推進を図るため、良質堆肥の安定的供給の拠点となる施設を整備する。

これらの取組を通じて、今後も引き続き、井原市、県、生産者等の連携を深め、井原・芳井地域に分散している営農施設を有効利用することにより、当該地域の一体的生産団地育成を進めることとする。またその取組が、ひいては当該地域を包括する井原市全体の農業振興にもつながると考え、市全体の発展との相乗効果により、当該生産団地の持続的な発展に結びつけていくものである。

第3 農業生産基盤の整備及び開発に関する計画

1 整備・開発の構想

本地域の大部分は、標高 200m程度の中山間地域であるため、小規模な生産団地が散在しており、農業従事者の減少などの問題を抱えている。このような現状を打開するため、中山間地域総合整備事業、農村総合整備モデル事業、農業構造改善事業等の実施により、営農の基礎的条件の整備を図ってはいるが、各生産団地を連絡する道路網が未整備のため、農産物の集出荷の合理化が阻まれている。農業経営の近代化を図るためには、各生産団地を連絡し、農産物や農業資材等の輸送が効率的に行える基幹的な道路を整備することが急務である。

今後とも、各種の土地基盤の整備を一層推進して農地の汎用化、営農の効率化を図るとともに、広域農道の整備により本団地内の生産団地を連絡し、営農環境情報の共有化を図るべく営農流通管理センターの整備を行い、季節の農産物集出荷施設、堆肥製造施設等の農業近代化施設を有効に活用するとともに、これらを再編した新たな基幹施設を設置し、生産団地と市場の流通全般にわたる輸送の効率化を図ることが必要である。

広域農道を軸として、それに接続する既存の国道、主要地方道、さらには山陽自動車道等の高速自動車網と連携した流通体系により、県南各都市や京阪神、広島、九州の各市場へ輸送の合理化を図るものである。

2 整備・開発計画

(1) 農道整備事業の計画

事業の概要	受益の範囲		備考
	関係面積	関係市	
広域農道	1,619ha	井原市 (旧井原市、旧芳井町)	農道整備事業として新設する延長は約 19.0km であるが、接続部の一般道路（市道等）の約 6.1km（改良区間も含む）もあわせて広域農道として位置付けている。

(2) その他の広域的な事業の計画

該当なし

第4 農業近代化施設の整備に関する計画

1 整備の構想

本団地には、地域振興事業、家畜糞尿処理システム施設設置事業等により農産物加工場、集出荷施設、家畜糞尿乾燥発酵施設等の諸施設の整備を進めてきたが、これらの多くは、一部の地域や特定の生産集団を対象に整備した施設であり、高齢化等による地域農業の衰退により利用率が低下している。

今後は、営農流通管理センターを設置し、基幹作物を対象に本団地を一带とした生産から販売までの体制を再構築する。

「米」については、生産性の向上と良質米の安定生産をねらいに振興を図ってきており、各所で行っていた検査を集約し、荏原低温倉庫の隣接地に検査場（豆・野菜併用）を整備している。

今後は、既存施設の機能向上及び共同利用機会・施設の充実を図る。

「大豆、小豆」については、水田転作作物の基幹として位置付け、生産性の向上を図る。今後は、コスト低減のための荏原地区の集出荷施設を活用した集出荷体制を確立するとともに、共同利用機械・施設の充実を図る。

「野菜」については、地域の特性を活かした特産野菜を中心に振興を図っていく荏原地区の集出荷施設を活用し、既存の小規模集出荷施設の効率的利用を図ることにより、高齢化への対応と生産量の増加に対応した集出荷体制の再構築を行う。

「果樹」については、既存産地のほかに畑地の有効利用の観点から、積極的な産地育成を図ることとする。これまで、構造改善事業等により集落規模の小規模な施設が整備されてきたが、今後はこれらを再編するとともに青野地区に鮮度保持設備等を備えた中央選果場を整備する。

「花き」については、産地が地域内に分散しているが、既存施設を活用しつつ、果樹と併用した集出荷施設を拠点とした集荷ネットワークを構築する。

「乳用牛」については、優良で均質な牛乳の生産を基本として、制度資金等を活用して、パイプライン等の施設の近代化、タンクローリーによる集送の合理化等を図る。また、糞尿処理の合理化と環境汚染の防止に努め、地域内の耕種、園芸農家との連携による土作り対策として良質堆肥の確保・活用のための堆肥施設を整備する。

「肉用牛」「採卵鶏」については、農家の条件に適合する頭羽数規模を設定し、生産性の向上による無理のない経営拡大を図る。このため、飼料基盤に立脚した経営を主体に飼養管理技術の向上、産肉、産卵の向上に努め、生産コストの低減による経営体制の充実を図る。資本強化に必要な施設整備については、制度資金等を活用する。

系統図

別図（米、大豆・小豆、そば、野菜、果樹、花き、乳用牛（生乳）、肉用牛、採卵鶏（鶏卵））

2 整備計画

施設の種類	位置	規模、処理能力、目的	受益戸数	受益面積	利用組織 (事業主体)	備考
営農流通管理センター	井原市東江原	生産・流通・加工の統括 生産資材の農家への供給	全戸	全戸	JA 晴れの国岡山	井原市 (旧井原市、旧芳井町)
果樹・花き集出荷施設	井原市青野	1棟 2,000 m ² 果樹、花きの集荷、専科、貯蔵、出荷	381 戸	179ha	JA 晴れの国岡山	井原市 (旧井原市、旧芳井町)
堆肥センター (堆肥保管施設)	井原市青野	1棟 1,500 m ² 良質堆肥の確保・保管・流通	全戸	1,132ha	JA 晴れの国岡山	井原市 (旧井原市、旧芳井町)

3 他事業との関連

旧芳井町明治地区には、JAが地域登録商標を取得した「明治ごんぼう」があり、ブランド化を進めている。また同地区は生産者団体「明治ごんぼう村」や農産物の加工及びその体験が行える「ごんぼう手作り体験道場」があり、平成8年には県営畑地帯総合整備事業による畑地かんがい施設が完成している。広域農道の整備は同地区の安定生産された高品質な野菜の流通に欠かせないものであり、また、年に1回開催される明治ごんぼう村フェスティバルには市内外から多くの人々が来訪するため、都市交流によるまちおこしに果たす役割は大きい。今後、町内の幹線道路沿いに賑わい創出拠点整備事業を計画しており、相乗効果を期待できる。

旧芳井町共和地区では、県営中山間地域総合整備事業により畑地かんがい施設の整備を行いピオーネなどの大粒系ぶどうの特産化を目指して栽培面積を拡大中であり、広域農道の整備により一層の産地化を目指している。

第5 広域営農団地の管理運営組織の整備に関する計画

1 広域営農団地管理運営組織の整備

本団地は、井原市の旧井原市、旧芳井町を範囲としており、農業生産活動は令和2年に県内8農協が合併して発足した「晴れの国岡山農業協同組合」がその中核となって活動している。広域営農団地の生産から販売に至る過程で、組織や施設が相互に有機的に関連性をもって運営し得るよう、晴れの国岡山農業協同組合岡山西統括本部西部広域営農経済センター井原アグリセンターを中心に関係機関が連携して取り組む。

2 広域農業近代化施設管理運営組織の整備

(1) 営農流通管理センター

広域営農団地の生産から販売に至るまで企画立案実行のための中枢機能を有する施設として、晴れの国岡山農業協同組合岡山西統括本部西部広域営農経済センター井原アグリセンターに営農流通管理センター機能を充実させる。

(2) 果樹、花き集出荷施設

広域農協が、地域農産物の計画的、安定的な出荷を推進し、流通の合理化を図るために、果樹、花きの集出荷施設を整備する。

(3) 堆肥センター

地域内農地の土地生産力強化のため、地域内及び隣接地域内で生産された良質な堆肥等を確保、保管し安定的に供給するための堆肥センターを設置する。

3 広域営農団地の管理者の養成方針

営農団地の生産から集出荷、販売にいたる各段階の各種施設等の機能を十分発揮させるため、広域営農団地の育成の具体的方策について、農業関係団体、市及び県の職員をもって構成する育成研究会を開催し、調査研究を行う。

また、中核的管理者を養成するため、中央研修会へ農業団体の職員を積極的に参加させるとともに、管理者の養成に努める。

第6 農業生産団地の形成等との関連

1 農業生産団地形成の構想

本団地における農業生産団地は、地域の特性に即した土地基盤の整備開発、農用地の集積・集約及び生産の組織化を進めつつ、米・野菜・果樹・畜産等を中心に生産性の高い農業生産団地の育成を図る。

なお、各作目ごとの農業生産団地形成の構想は、次のとおりである。

(1) 米

需要の動向と地域の特性に即して、本団地の基幹作目を、「米」、「野菜」、「果樹」、「花き」及び「畜産」等として生産の外延拡大、生産技術の向上や作付けの拡大により、地域輪作体系を確立し、効率的な流通加工体制の確立を図る。

(2) 野菜

畑地を中心に県指定野菜であるトマトをはじめ、ばれいしょ、きゅうり、ほうれんそう、キャベツ、ごぼう等の露地野菜を主体に生産の拡大を図り、一部にハウス化を推進し、高度な輪作体系を導入するとともに、平坦地から準高冷地までの標高差を活かした周年供給体制を構築し、大規模な生産団地を育成する。

(3) 果樹

土地資源と地域の立地条件を生かし、ぶどう、桃、なし、かきを主体に生産性の高い生産団地を育成する。

(4) 花き

リンドウ、トルコギキョウ等の切り花を中心に地域の立地条件を生かした適地適作による、生産性の高い周年供給可能な団地を育成する。

(5) 薬用作物

薬用シヤクヤクなどの薬用作物については、栽培技術の確立に向けた実証実験とともに販路の拡大を推進し、特産作物として産地化の確立を目指す。

(6) 畜産

良質粗飼料の生産増強と機能的多頭飼養体系の導入による、専門的な畜産経営基礎を確立する。

地域の主要品目である採卵鶏については、経営事情が依然として厳しい環境下にあるが、一層の低コスト生産を目指した振興を行う。

2 農業生産団地と広域施設等との関連

本団地の生産から流通までの基盤となる基幹農道は、改良及び新設する広域農道を含めて、米・野菜・果樹・花き・畜産等の各生産団地を結び、生産から出荷、加工に至る一体的な流通を進め、団地内流通と域外出荷の円滑化と地域活性化の役割を担う道路として活用を図る。

また、各生産団地を一体とした生産出荷を調整するための拠点施設としての営農流通管理センターの整備を図るとともに、畜産農家と耕種・園芸農家の間の相互補完体制を確立し、土地生産力の増給をするための良質堆肥の有効活用が可能な堆肥センターの整備を図る。

井原・芳井地域広域整備計画書
(広域営農団地整備計画)

表 1～4

別 図

参 考 資 料

目次

表 1	農家戸数、農家人口、農業就業人口の推移-----	1
表 2	土地利用の推移-----	1
表 3	農業生産の推移-----	2
表 4	栽培農家戸数・栽培面積・生産量・商品量-----	3
別図	米-----	4
	大豆・小豆-----	5
	そば-----	6
	野菜-----	7
	果樹-----	8
	花き-----	9
	乳用牛（生乳）-----	10
	肉用牛-----	11
	採卵鶏（鶏卵）-----	12
参考資料	営農流通管理センターを設置する必要性-----	13
	広域営農団地農道整備の必要性-----	14
	果樹・花き集出荷施設の設置状況と活用方針-----	16
	堆肥施設の設置状況と活用方針-----	18

表1 農家戸数、農家人口、農業就業人口の推移

種別 年次	専兼別農家戸数（戸）			経営耕地規模別農家戸数（戸）				
	自給的農家	販売農家	計	0.5ha未満	0.5~1.0	1.0~2.0	2.0~3.0	3.0ha以上
平成17年	1345	806	2151	1754	302	85	7	3
平成27年	1416	1011	2427	147	279	243	41	121
令和2年	1148	774	1922	313	309	133	19	23
令和2年推計値	656	443	1099	822	177	76	11	13

出典：2020年農林業センサス 第1巻 都道府県別統計書（岡山県）

https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00500209&tstat=000001032920&cycle=7&year=20200&month=0&tclass1=000001147146&tclass2=000001155386&tclass3=000001161079&collect_area=200&tclass4val=0&metadata=1&data=14

表2 土地利用の推移

種別 年次	耕地面積								採草放牧地	山林原野	計
	田	畑	果樹園	桑園	茶園	その他	草地	計			
平成17年	935	652	125	0	0	0	0	1712	0	11116	12828
平成27年	881	600	125	-	-	-	-	1606	0	11287	12893
令和2年	871	538	125	-	-	-	-	1534	-	11377	12911
R2/H17	93%	83%	100%					90%		102%	101%
R2/H27	99%	90%	100%					96%		101%	100%

出典：確保すべき農用地等の面積の目標の達成状況調査（井原市）

表3 農業生産の推移

	平成 7 年			平成 11 年			平成 17 年			令和 2 年		
	栽培面積 飼養頭羽数	生産量	産出額 (百万円)	栽培面積 飼養頭羽数	生産量	産出額 (百万円)	栽培面積 飼養頭羽数	生産量	産出額 (百万円)	栽培面積 飼養頭羽数	生産量	産出額 (百万円)
米	770 ha	3,854 t	1,080	656 ha	3,284 t	760	621 ha	3,324 t	640	485 ha	2,304 t	435
雑穀、豆、いも類	107 ha	1,150 t	130	93 ha	617 t	110	43 ha	216 t	50	6 ha	249 t	58
野菜	262 ha	3,378 t	580	199 ha	3,164 t	420	129 ha	1,858 t	230	9 ha	985 t	122
果樹	157 ha	1,492 t	510	132 ha	1,566 t	500	137 ha	1,089 t	550	44 ha	1,983 t	1,001
花き	733 a	865 千本	40	645 a	899 千本	40	464 a	576 千本	40	464 a	576 千本	40
工芸作物	53 ha	-	140	20 ha	-	70	8 ha	-	20	1 ha	-	0
乳用牛	517 頭	2,981 t	260	294 頭	1,696 t	160	159 頭	1,367 t	90	89 頭	1,139 t	75
肉用牛	753 頭	115 t	130	660 頭	101 t	90	492 頭	174 t	70	137 頭	107 t	43
豚	1,382 頭	132 t	70	534 頭	51 t	-	-	-	-	- 頭	-	-
採卵鶏	11,397 百羽	14,816 t	2,410	8,561 百羽	11,130 t	2,270	10,079 百羽	20,104 t	2,770	8,315 百羽	19,918 t	2,744

(岡山県農林水産統計年報、2020年農林業センサスから推計)

表4 栽培農家戸数・栽培面積・生産量・商品量

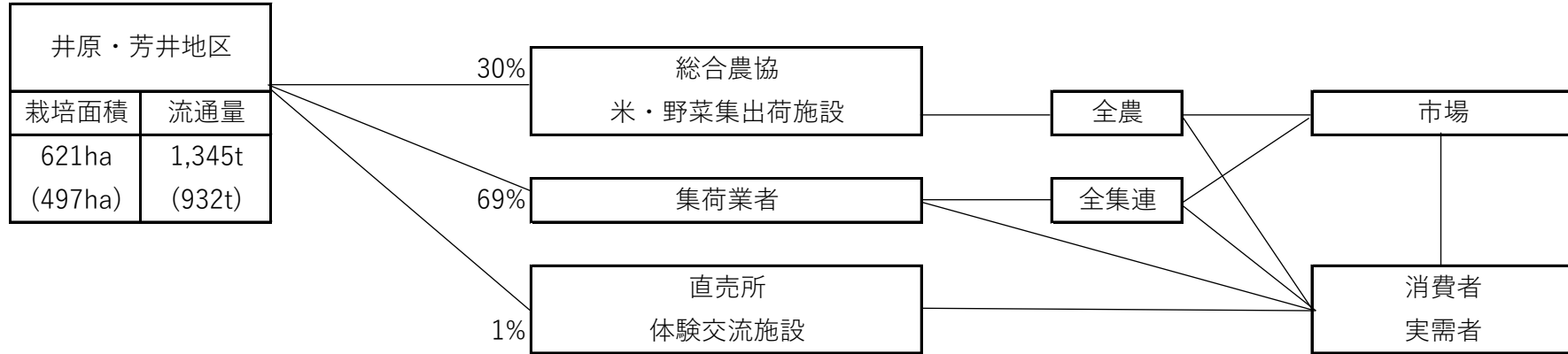
	栽培農家戸数(戸)					栽培面積(飼育頭羽数)(ha・頭・百羽)					生産量(t・千本)					商品量(t・千本)					商品化率	
	(1995)	(1999)	(2005)	(2020)	(2030)	(1995)	(1999)	(2005)	(2020)	(2030)	(1995)	(1999)	(2005)	(2020)	(2030)	(1995)	(1999)	(2005)	(2020)	(2030)	(2005)	(2030)
	平成7年	平成11年	平成17年	令和2年	令和12年 (目標)	平成7年	平成11年	平成17年	令和2年	令和12年 (目標)	平成7年	平成11年	平成17年	令和2年	令和12年 (目標)	平成7年	平成11年	平成17年	令和2年	令和12年 (目標)	平成17年	令和12年 (目標)
米	3008	2390	2151		1538	770	656	621	497	532	3854	3284	3324	2304	2820	649	368	1345	932	1833	40%	65%
新規需要米	0	0	0	作物別は経営体数のデータのみ(センサス)	74	0	0	0	2	37	0	0	0	1	196	0	0	0	1	196	0%	100%
大豆	838	697	256		256	31	30	11	2	33	51	48	14	3	50	38	34	4	1	40	29%	80%
小豆	244	203	60		60	20	17	5	2	15	15	12	4	2	18	10	8	2	1	16	50%	90%
そば	90	60	40		40	9	6	4	0	12	7	4	2	0	12	7	4	2	0	12	100%	100%
(豆・雑穀計)	1172	960	356		356	60	53	20	5	60	73	64	20	5	80	55	46	8	2	68		
ばれいしょ	1084	975	561		561	47	40	23	19	69	710	500	287	239	1794	354	241	280	234	1704	98%	95%
はくさい	1009	849	540		540	13	11	7	9	21	617	549	269	363	1890	408	343	182	246	1796	68%	95%
だいこん	1360	1159	966		966	12	6	5	2	15	395	188	198	74	750	87	42	101	38	645	51%	86%
キャベツ	854	716	430		430	13	10	6	5	18	367	283	126	98	1080	239	169	96	75	1026	76%	95%
かぼちゃ	622	536	322		322	5	5	3	***	9	62	66	43	***	252	21	23	24	***	227	56%	90%
ほうれんそう	1285	1087	629		629	26	19	11	4	33	453	306	166	55	495	398	271	134	45	436	81%	88%
ごぼう	395	324	324		324	8	7	7	***	21	126	119	87	***	525	100	102	70	***	499	80%	95%
なす	1448	1292	646		646	7	6	3	2	9	168	176	98	78	720	62	103	68	54	648	69%	90%
青鞘えんどう	317	262	210		210	10	5	4	***	12	53	26	19	***	72	38	18	8	***	65	42%	90%
さといも	648	558	335		335	8	5	3	2	9	56	57	40	23	225	32	34	26	15	203	65%	90%
きゅうり	1471	1234	926		926	7	4	3	1	9	113	55	39	11	900	55	27	13	4	810	33%	90%
トマト	1189	1068	534		534	5	4	2	1	6	184	96	50	14	600	138	49	23	6	570	46%	95%
ピーマン	901	821	411		411	2	2	1	1	3	44	47	16	13	135	23	26	7	6	122	44%	90%
にんじん	734	619	310		310	3	2	1	0	3	63	48	30	0	108	18	16	12	0	86	40%	80%
いんげん	495	417	250		250	11	5	3	***	9	56	32	15	***	90	41	23	8	***	81	53%	90%
レタス	399	332	332		332	1	1	1	0	3	27	23	15	0	90	13	10	9	0	88	60%	98%
たまねぎ	1504	1332	777		777	12	12	7	3	21	449	358	255	119	1470	289	261	180	84	1294	71%	88%
いちご	316	261	261		261	1	1	1	1	3	10	13	14	10	150	5	9	11	8	144	79%	96%
すいか	660	551	276	276	7	4	2	1	6	80	44	26	7	300	13	7	3	1	282	12%	94%	
ブロッコリー	109	134	67	67	2	2	1	2	3	12	16	14	25	36	6	9	7	12	29	50%	80%	
(野菜合計)	16800	14527	9107		9107	200	151	94	52	282	4045	3002	1807	1131	11682	2340	1783	1262	827	10753		
ぶどう	169	155	185		214	97	77	92	92	138	1250	1263	883	884	3036	1182	1193	824	825	2884	93%	95%
もも	53	45	45		60	8	4	4	3	8	106	46	62	42	176	90	42	57	39	169	92%	96%
なし	7	10	10		20	2	2	2	1	6	22	24	42	30	198	19	22	38	27	190	90%	96%
かき	63	18	32		32	13	16	12	2	18	87	93	13	2	414	39	42	6	1	352	46%	85%
(果樹合計)	292	228	272		326	120	99	110	98	170	1465	1426	1000	958	3824	1330	1299	925	891	3595		
花き(切り花)	96	78	56		55	7	6	5	0	9	865	899	576	30	1037	865	899	576	30	1037	100%	100%
こんにゃく	58	47	7		12	6	5	1	***	5	12	10	2	***	51	10	9	2	***	45	100%	89%
(工芸作物計)	114	72	21		25	32	26	8	0	12	85	48	15	0	69	83	47	15	0	63		
飼料作物	18	12	8		7	65	43	1	***	20	2577	1659	66	***	968	2577	1659	66	***	968	100%	100%
飼料用稲	0	0	0		6	0	0	0	***	10	0	0	0	***	200	0	0	0	***	200	-	100%
(飼料計)	18	12	8		13	65	43	1	***	30	2577	1659	66	***	1168	2577	1659	66	***	1168		
乳用牛	18	12	8		6	517	294	159	89	140	2981	1696	1367	761	1204	2981	1696	1367	761	1204	100%	100%
肉用牛	16	14	12		8	753	660	492	137	510	115	101	174	48	181	115	101	174	48	181	100%	100%
豚	4	1	0		0	1382	534	0	0	0	132	51	0	0	0	132	51	0	0	0	-	-
採卵鶏	24	21	7		7	11397	8561	10079	8315	11000	14816	11130	20104	16586	21941	14816	11130	20104	16586	21941	100%	100%

(農林業センサス、岡山県農林水産統計年報から推計)

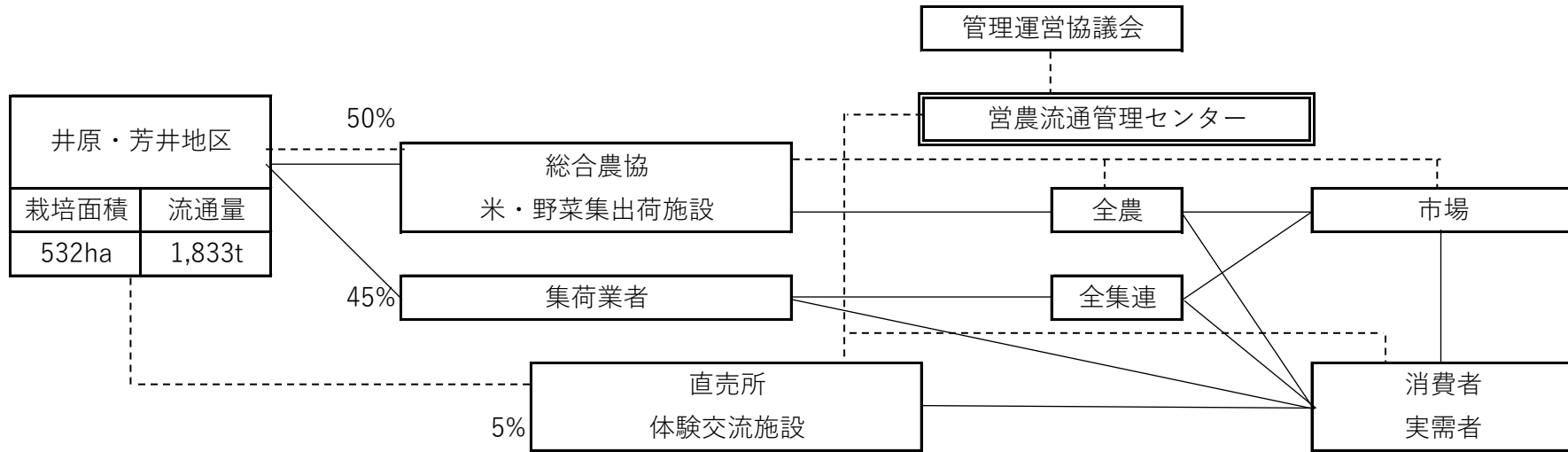
米

(現況) 数値はH17調査、() はR2推計値

-----	情報機能系統
—————	物的流通系統
▭	計画対象施設



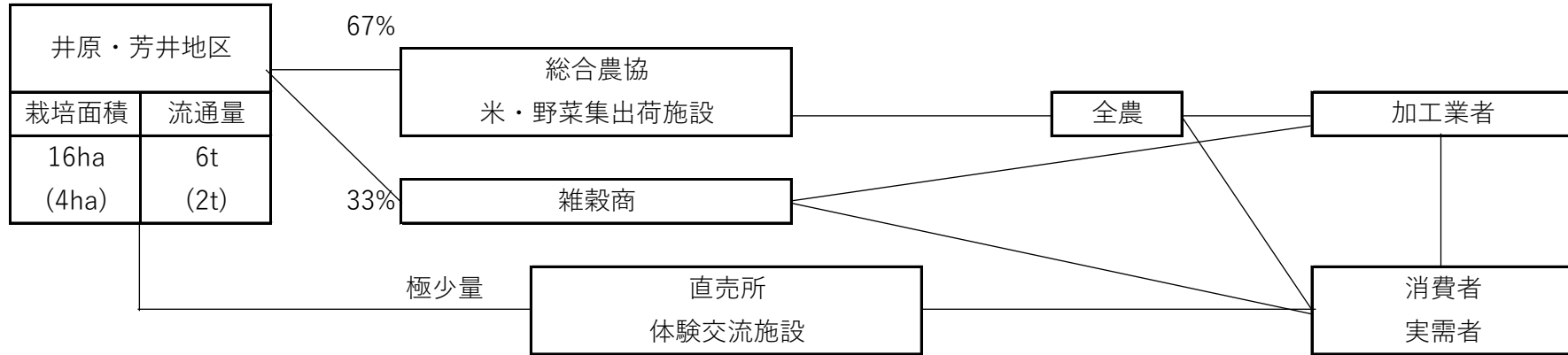
(将来)



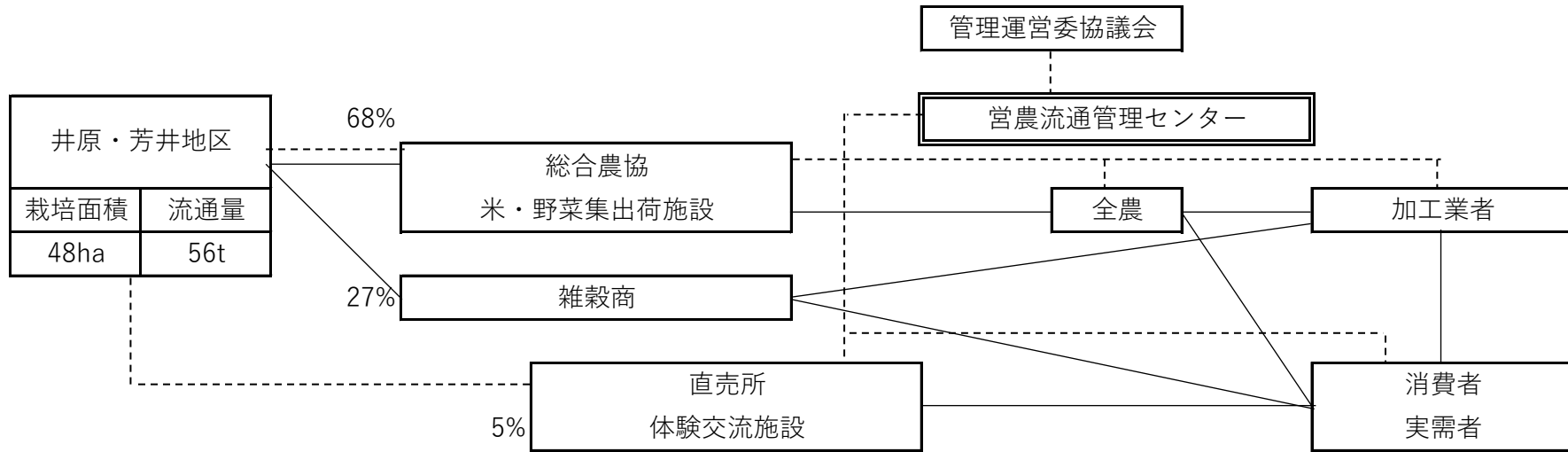
大豆・小豆

(現況) 数値はH17調査、()はR2推計値

-----	情報機能系統
—————	物的流通系統
▭	計画対象施設



(将来)



そば

(現況) 数値はH17調査、()はR2推計値

-----	情報機能系統
—————	物的流通系統
▭	計画対象施設

井原・芳井地区	
栽培面積	流通量
4ha	2t
(0ha)	(0t)

集荷施設
製粉施設 (美星町)

直売所
体験交流施設

飲食業者

加工業者

(将来)

井原・芳井地区	
栽培面積	流通量
12ha	12 t

集荷施設
製粉施設 (美星町)

管理運営協議会

営農流通管理センター

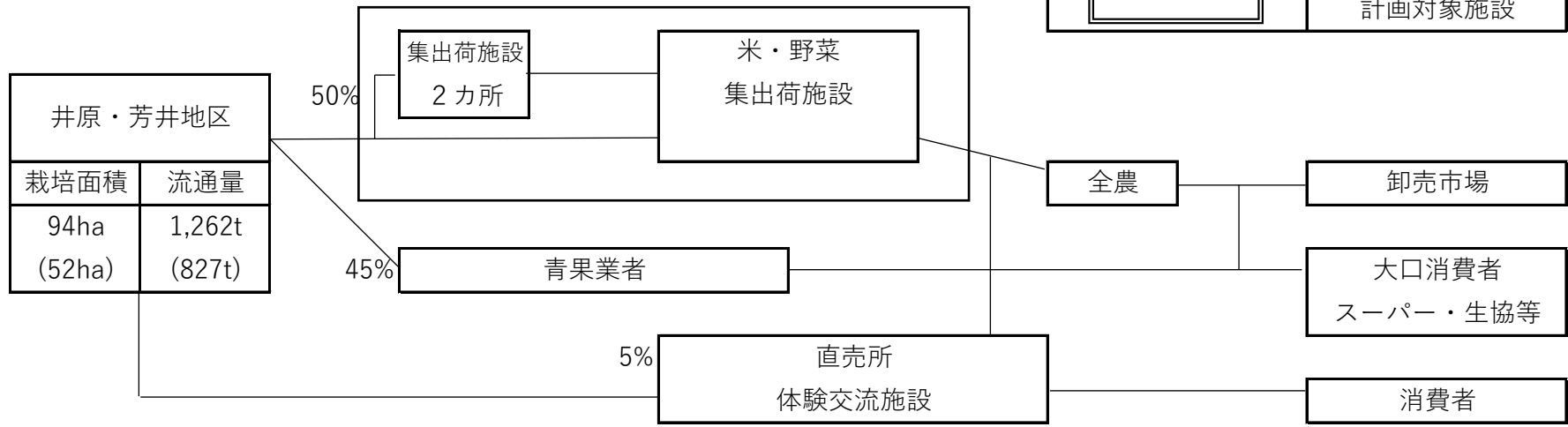
直売所
体験交流施設

飲食業者

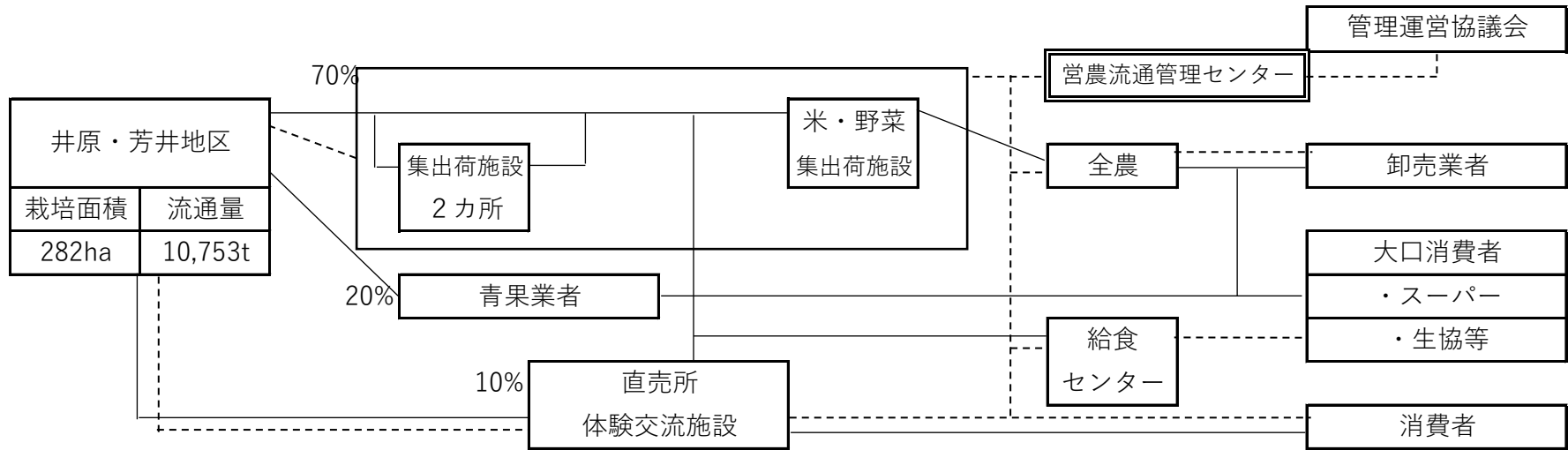
加工業者

野菜

(現況) 数値はH17調査、()はR2推計値



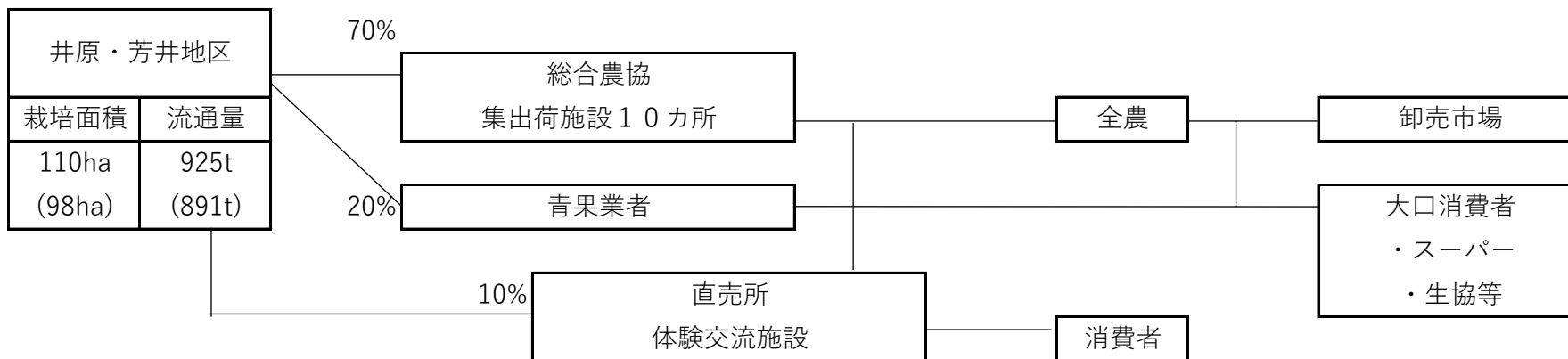
(将来)



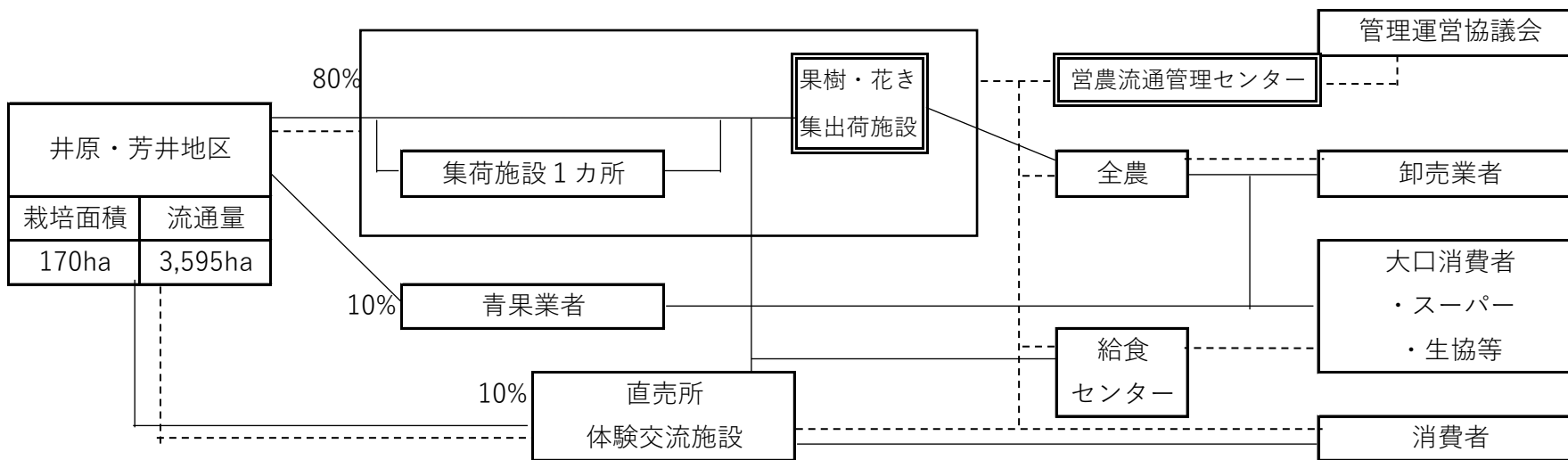
果樹

(現況) 数値はH17調査、()はR2推計値

-----	情報機能系統
—————	物的流通系統
▭	計画対象施設



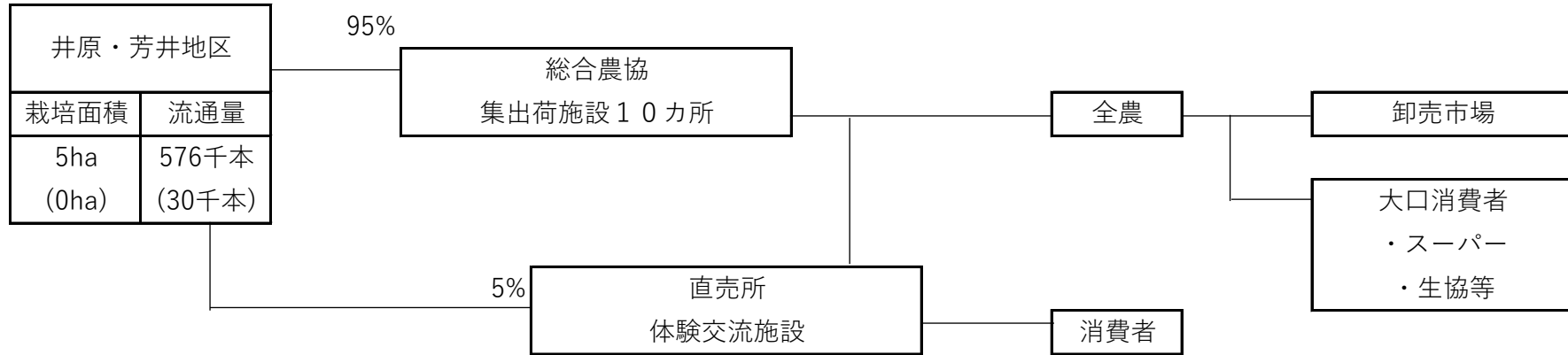
(将来)



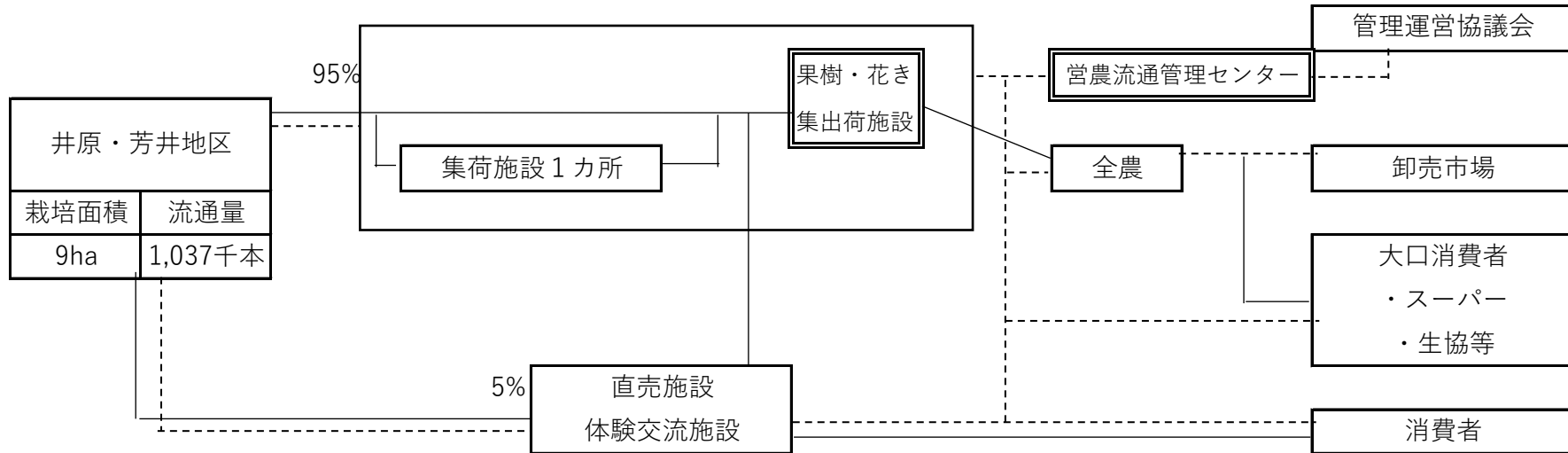
花き

(現況) 数値はH17調査、()はR2推計値

-----	情報機能系統
_____	物的流通系統
▭	計画対象施設



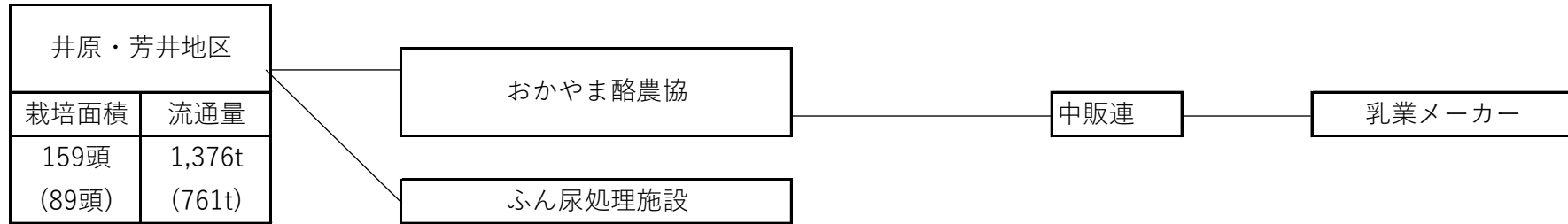
(将来)



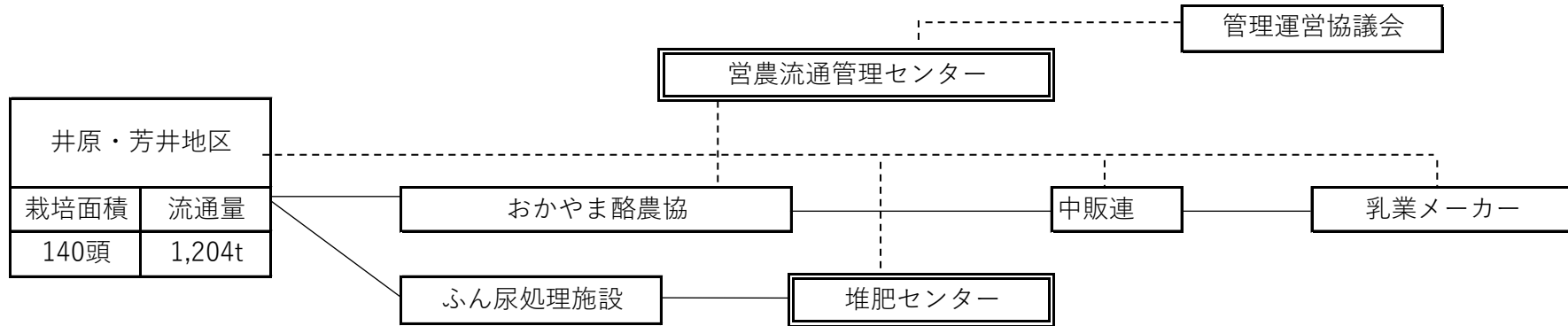
乳用牛（生乳）

（現況） 数値はH17調査、（ ）はR2推計値

-----	情報機能系統
—————	物的流通系統
▭	計画対象施設

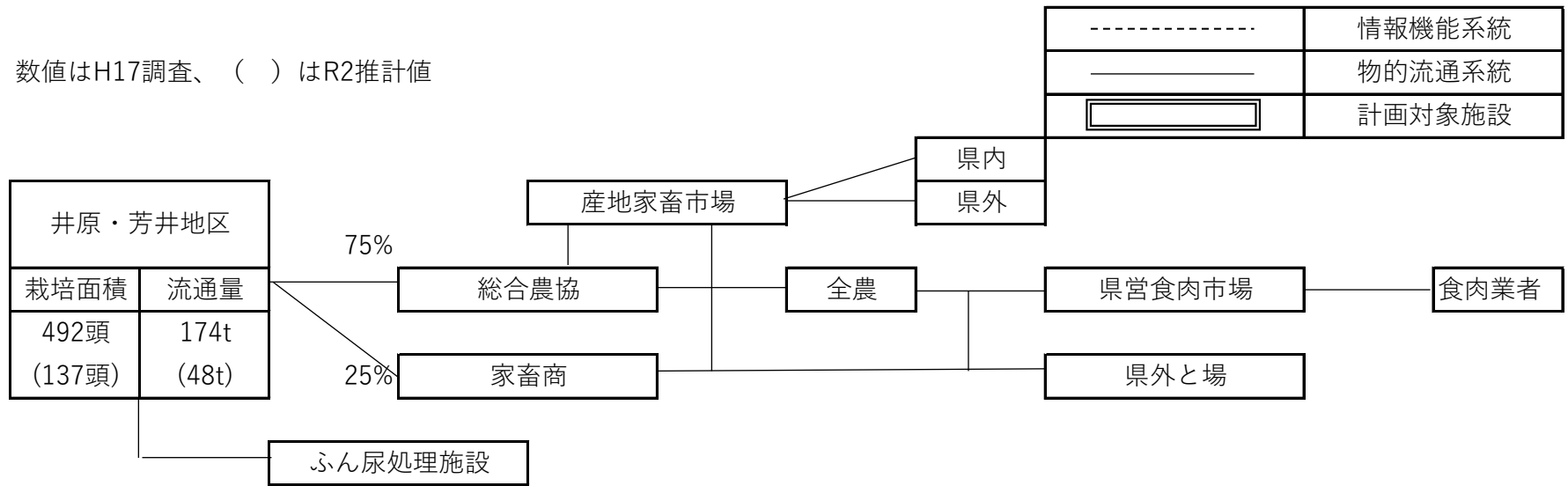


（将来）

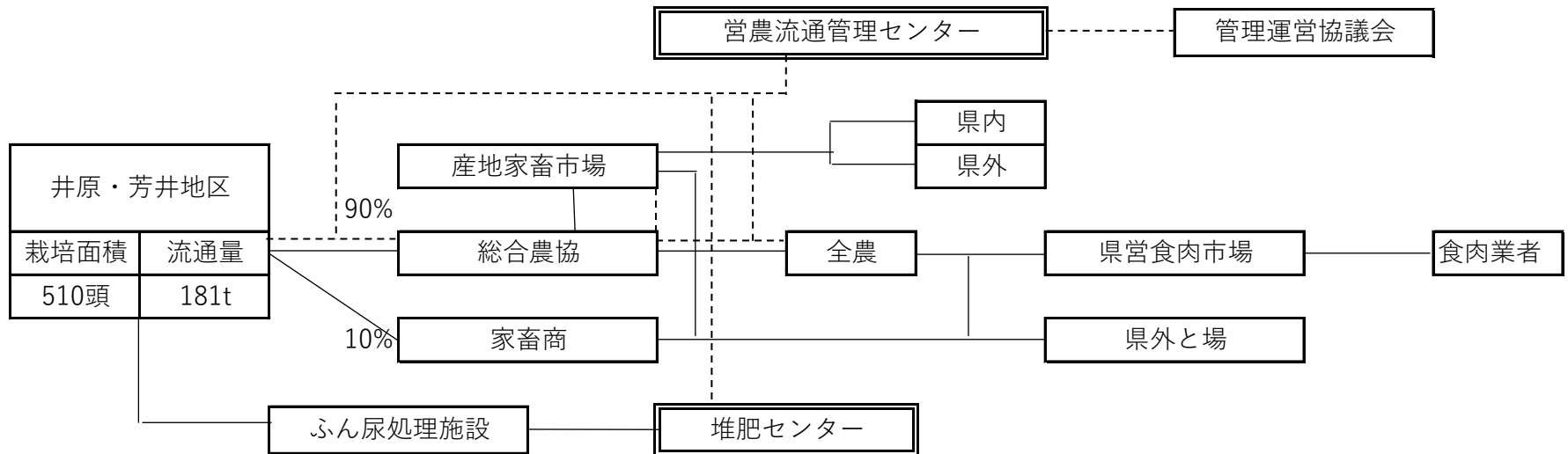


肉用牛

(現況) 数値はH17調査、()はR2推計値



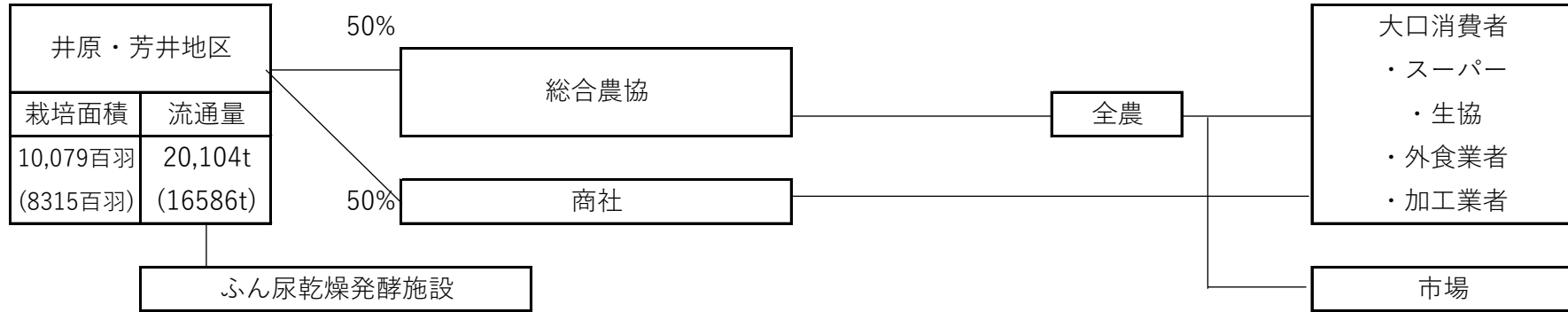
(将来)



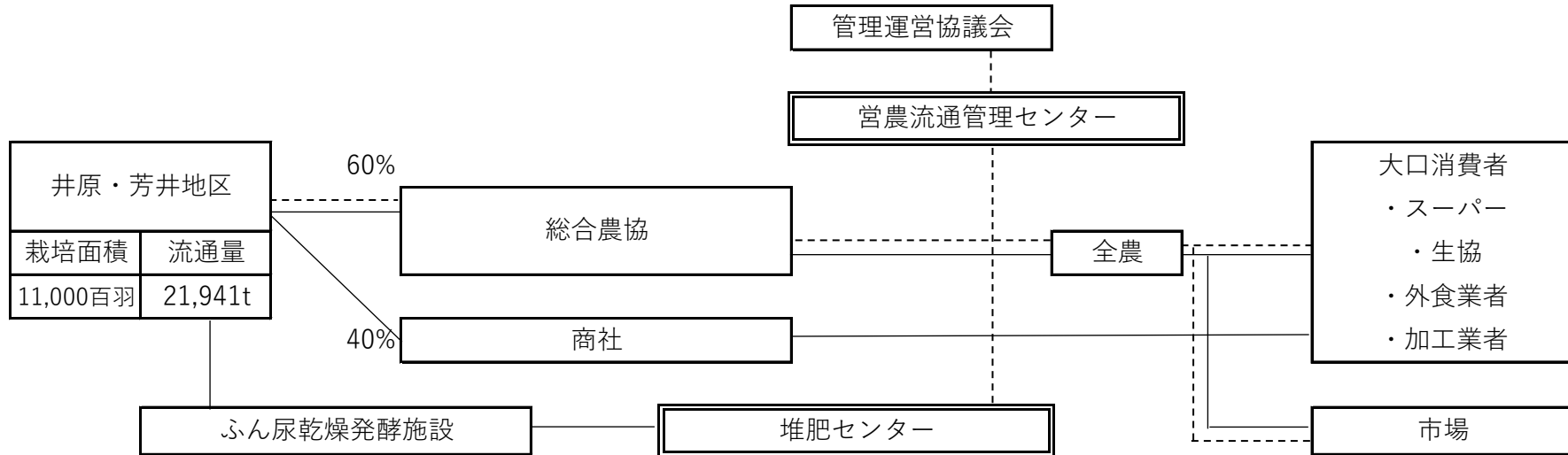
採卵鶏（鶏卵）

（現況） 数値はH17調査、（ ）はR2推計値

-----	情報機能系統
—————	物的流通系統
▭	計画対象施設



（将来）



営農流通管理センターを設置する必要性

1 設置の必要性

- (1) 井原市を管轄する「岡山西農業協同組合」を含む県内8農協が合併し、令和2(2020)年4月1日に「晴れの国岡山農業協同組合」が発足した。広域営農団地内の基幹作物に関して生産から流通・加工に至るまで一貫して統括し、一元的な作付け、出荷、販売計画の立案、営農技術指導を担う営農流通管理センターの設置が必要である。
- (2) 野菜、果樹などの多様な基幹作物について生産の拡大、販売の拡大を図り、市場や生協等大口需要者に有利販売を展開していくことが最大の課題であり、本団地内の市、農協、生産者等の協力が強く求められている。
- (3) 農産物の生産から流通に至る一体的効率的な団地を形成するためには、基幹作物に関して生産・流通・加工まで一貫して統括するセンターの設置が必要となる。つまり、当団地内で零細に生産されている農作物を広域農道、広域の集出荷施設等を利用して、有利な販売に結びつけるため、規格の統一、販売計画の立案、営農技術指導を行う営農流通管理センターが必要である。
- (4) 現在、農協、任意組合や市の各種施設が各地域に分散して設置されているが、一体的生産団地の育成のため、米貯蔵出荷施設、農産物集出荷施設、堆肥センター等の広域施設の管理運営も含めて統一的な管理運営主体の形成が必要である。

2 整備の方向

営農流通管理センターを運営する組織として、市、農協、県民局、普及センターによる「運営協議会」を組織し、通常の運営管理は市、農協などの職員で組織する運営委員会で行い、通常業務は農協の指導等により対応することが考えられる。

本センターは、本団地の生産、販売における方針や計画を立案する企画機能、各生産団地間や近代化施設間の調整機能を担い、市況・気象生産技術等の情報提供や団地内の生産状況等の把握など各種情報の一元管理を行う組織であり、本団地の中枢機能を担当する組織である。

なお、設置場所については、地域内での地理的条件などから井原市東江原町にある晴れの国岡山農業協同組合岡山西統括本部西部広域営農経済センター井原アグリセンター内に設置する。

広域営農団地農道整備の必要性

1 計画構想

- (1) 事業計画 $L = \text{約} 19.0 \text{ km}$
 $W = 5.0 \sim 7.0 \text{ m}$ (車道幅員 $4.0 \sim 5.5 \text{ m}$)
- (2) 利用範囲 井原市 (旧井原市及び旧芳井町)

2 必要性

- (1) 本営農団地における野菜団地、果樹団地などの各種生産団地は丘陵部に分散し横に分断されている。すなわち、既存の一般道路網は旧井原市市街地から放射状に伸びているうえ、その道路のいくつかはこれら山地部の谷底を走っている。このため、広域営農団地として生産・流通における統一的な管理機能を果たすことが現状では困難である。
- (2) 広域農道の整備により、集出荷における効率化が一層促進される。
- (3) 広域農道の整備は、農村集落相互間の日常交通も活発にし、農村集落相互の関係の改善と強化を通じて地域振興に寄与する。
- (4) 広域農道は、農産物の輸送に限らず、都市住民へゆとりを提供するグリーン・ツーリズムに対応した都市と農村の交流手段として欠くことのできないものであり、特に観光農業や観光、レクリエーション施設の連携と統合化による効率的利用の促進に果たす役割は大きい。
また、広域農道の整備により、観光農園、農産物の直売所、体験施設等の都市と農村を結びつける交流施設の利用が促進され、地域活性化が期待できる。

3 緊急性

- (1) 拠点となる広域利用施設である米・野菜集出荷施設、果樹・花き集出荷施設、堆肥センター等の有効利用を図り流通体系を確立するには、生産地とこれらの施設を結ぶ広域農道の整備が前提である。
- (2) 地域の背骨となる広域農道の整備は、不在地主や地域外の受託農家の通作条件の改善につながり、喫緊の課題である耕作放棄地の拡大

防止と解消に不可欠である。

- (3) 広域農道の整備により輸送時間の短縮、輸送車両の大型化による生産・流通の効率化が図られ、当該中山間地域の過疎化、高齢化、後継者不足による農業の衰退化傾向に歯止めをかけ、農業振興、地域活性化を実現するためには、生産・流通の基盤となる広域農道の早期完成が急務である。

果樹・花き集出荷施設の設置状況と活用方針

1 設置状況

- (1) 果樹（花き併用）に係る集出荷施設は井原地区に3カ所、芳井地区に2カ所あるが、いずれも小さな営農ブロック単位に設置された小規模な施設であり、広域的な生産から販売までの一体化した流通体制とは言い難い。
- (2) 北部高原地帯を中心に高齢化の進展が著しく、生産物を遠距離の集出荷施設まで運ぶことが難しくなりつつある。

農産物集出荷関連施設の現状

○果樹集出荷施設（野菜併用）

旧市町名	設置場所	施設名、規模	設置事業名（設置年度）	備考
井原市	青野	野菜、果樹集出荷施設 1棟 1,189 m ²	新農業構造改善事業（S55）	花き併用

○果樹集出荷施設

旧市町名	設置場所	施設名、規模	設置事業名（設置年度）	備考
芳井町	三原	ブドウ集出荷施設 1棟 130 m ²	単県事業（H元）	花き併用
芳井町	高原	ブドウ集出荷施設 1棟 94 m ²	単県事業（H3）	花き併用
井原市	池ノ内	ブドウ集出荷施設 1棟 814 m ²	園芸作物生産団地育成事業（S54）	花き併用
井原市	有年	ブドウ集出荷施設 1棟 95 m ²	単県事業（S58）	花き併用

2 活用方法

- (1) 広域農道を有効に活用して流通コストの低減を図るため、新たに、青野地区に拠点となるような比較的大規模な集出荷施設を設置し、選果、格付け、出荷の一元化を図り、併せて予鈴施設等の鮮度保持機能を拡充し流通の合理化を図る。
- (2) 既存の小規模施設については、農家の高齢化に対応した集約拠点として活用し、農産物集荷のネットワーク化を図ることとする。

3 設置計画

施設の種類	果樹・花き集出荷施設
設置場所	井原市青野
規模・能力	1棟 2,000 m ²
設置主体（運営主体）	JA 晴れの国岡山
受益戸数	381戸
受益面積	179ha
備考	

堆肥施設の設置状況と活用方針

1 現状及び必要性

- (1) 本地域内では、肉用牛、酪農、採卵鶏をはじめとする畜産業が盛んである。現在「井原市畜産クラスター計画」に沿って肉用牛の増頭が計画され畜産振興に力を入れている。
- (2) 発生する家畜糞尿の処理については、基本的には各畜産農家での堆肥製造施設による自家消費を基本に資源循環型社会に対応した施設整備を行っている。
- (3) 共同堆肥製造施設は、旧井原市に3カ所、芳井町に1カ所設置されている。
- (4) 「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」に基づき、糞尿の適正管理が一層求められるようになったとともに、地域の農業の持続的な発展に資する土作りに活用していくためにも良好な畜産環境を形成していく必要がある。
- (5) 一方、耕種農家においても食の安全と商品のブランド化の観点から、今後は有機農産物等の高付加価値型農業への指向が高まっており、堆肥の安定的供給が図られるよう流通体系を確立し、地域循環型農業を形成していく必要がある。
- (6) 畑作地帯の基幹作物であるブドウにおいては、良質な農産物を生産するため堆肥による土づくりを推進しており、大量に安定して確保保管していく必要が生じている。

家畜糞尿堆肥化施設の現状

旧市町名	施設名	設置事業名（設置年度）	設置主体（運営主体）	備考
井原市	井原北部家畜ふん尿処理施設	新農業構造改善事業（S58）	北部ふん尿処理施設組合	
井原市	大仏ふん鶏糞処理施設	畜産環境整備事業	大仏養鶏組合（S58）	
井原市	猪原家畜ふん尿処理施設	家畜ふん尿処理システム化事業（H11）	猪原地区堆肥利用組合	
芳井町	西吉井ふん尿処理施設	家畜ふん尿処理システム化事業（S58）	西吉井堆肥生産組合	

2 活用方法

- (1) 地域循環型農業の推進と安全な農業の確立に向け、地域内で発生する余剰堆肥の積極的活用を行うとともに、隣接した畜産地帯である美星地区や笠岡湾干拓地での余剰堆肥を積極的に活用するため、ストックヤードの役割を持たせた広域堆肥センターを設けて効率的な流通体制を確立し、効率的且つ積極的な活用を推進していく。
- (2) 基幹作物であるブドウの土づくり用堆肥のストックヤードを確保することで、堆肥の安定確保と散布の合理化を行い生産コストの低減を図る。

3 設置計画

施設の種類	堆肥センター（堆肥保管・供給施設）
設置場所	井原市青野
規模・能力	堆肥ストックヤード 1棟 1,500 m ² 年間貯蔵量 16,950t
設置主体（運営主体）	JA 晴れの国岡山
受益戸数	全戸
受益面積	1,132ha
備考	